

# 図書館だより

No.9・10

令和7年1・2月  
大洲中学校図書館  
合併号



大変遅くなりましたが新年明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願ひいたします。  
諸事情により1月、2月号は許可を得て、合併号として発行させて頂きます。

これぞ冬！といった感じの今日この頃です。感染症の猛威は峠を越えた模様ですが、まだまだ油断は禁物です。皆さん(特に受験を控えた三年生)、くれぐれも体調の管理に気をつけて下さいね。あともう少しです。頑張りましょうね！



## 図書館貸出しデータランキング

毎年恒例となりました大洲中図書館の貸出し図書に関するデータ(4月～12月まで)です。今年もみんなたくさん本を読んでくれました。ありがとうございます～す m(\_)\_m



### 【よく読まれた本 Best3】

- ・第一位 貸出数 14回 変な家 2 (雨穴 著)
- ・第二位 貸出数 12回 ストロベリームーン (芥川なお 著) ※昨年度第一位
- ・ " " 成瀬は天下を取りにいく (宮島未菜 著)
- ・ " " また、同じ夢を見ていた (住野よる 著)
- ・第三位 貸出数 11回 成瀬は信じた道をいく (宮島未菜 著)
- ・ " " 5秒後に意外な結末[アポロンの黄色い太陽] (桃戸ハル 著)
- ・ " " 5秒後に意外な結末[ミノタウロスの青い迷宮] (桃戸ハル 著)
- ・ " " 5秒後に意外な結末[パンドラの赤い花] (桃戸ハル 著) ※昨年度第三位

### 【一年生に最もよく読まれた本】

- ・貸出数 8回 ストロベリームーン (あぐたがわ 著)
- ・ " " 成瀬は天下を取りにいく (みやじま みな 著)
- ・ " " 5秒後に意外な結末[ミノタウロスの青い迷宮] (ももと はる 著)

### 【二年生に最もよく読まれた本】

- ・貸出数 7回 変な家 2 (雨穴 著)
- ・ " " 赤ずきん、ピノキオ拾って死体と出会う。 (あおやぎあいと 著)
- ・ " " むかしむかしあるところに、死体がありました。 (青柳碧人 著)

### 【三年生に最もよく読まれた本】

- ・貸出数 6回 天久鷹央の推理カルテ[悲恋のシンドローム] (ちねんみきと 著)

### 【よく借りた人 Best3】

- ・第一位 106冊 2年生 ※昨年度第一位
- ・第二位 91冊 1年生
- ・第三位 61冊 2年生 ※昨年度第七位

本に親しむ習慣を身につけておくと、何年か後に必ずそのことが役に立ちます。例えば、

・本の中には、普段会話をする時に自分では使わないような言葉がたくさん出でます。知らなかつ

た言葉に触れ、さまざまな言葉を覚えていくことで語彙力(その人がもっている単語の知識と、それを使いこなす能力)が身につきます。

- ・内容を理解しながら文章を読み進めることで、読解力が育れます。
- ・読書をすることで、順序立てて物事を考える力が身につき、論理的な思考力が身につきます。
- ・とくに好きな本に出会ったときには、昼夜を忘れて一気に読み進めるようなこともあるでしょう。その経験を繰り返すことで、集中力はどんどん鍛えられていきます。
- ・学習に直接役立つものはもちろん、日々の生活を豊かにするようなさまざまな知識が得られるのも読書のよさといえるでしょう
- ・本を読んでいるときいろいろなことを想像しています。頭の中でさまざまなイメージを思い浮かべることによって、想像力が養われていきます。
- ・読書を楽しんでいると、自然とストレスが解消されていくといわれています。寝る前に本を読むと、リラックスした状態で眠りにつくことができ、より質の良い睡眠をとることができるべきでしょう。

あまり読書に興味のない人も、まず図書館に足を運ぶことから始めてみてはいかがですか。きっと楽しい世界が見つかると思いますよ。

## 新規購入本のお知らせ。

今年度最後の新規購入本がやっと到着しました。今回は三冊です。数は少ないですが、内容で勝負！の思いで厳選した三冊です。さて、みんなは気に入ってくれるかな？(\*^\*)v



### ①『恋はいつも少し足りない』 神田澪 著 宝島社

140字小説のパイオニア・神田澪が紡ぐ、“恋”の物語のみを集めた140字小説集。

お互いの心臓の音が聴こえるくらいドキドキした青春のひと時、全力で恋をしたけれどうまくいかなかった日、傷つけ合いながらそれでも一緒にいた夜……。キュンとしたり、切なくなったり、たくさん恋の話がつめこまれた一冊です。



### ②『晴れ、ときどき雪』 小手毬るい 著 KODANSHA

春の嵐のように自信満々な初恋、友達以上恋人未満の遠距離初恋、球根のように地中深くうめておきたい秘密の初恋、運命の初恋、ひそやかにふくらむ初恋。

五粒のチョコレートボックスのような10代の恋のせつなさがつまつた五つの物語。



### ③『森と、母と、わたしの一週間』 八東澄子 ポプラ社

友達の一言に傷つき、仕事に疲れた父親には悩みも言えず、やりきれない気持ちを抱える野々歩。通学の途中、ふと風によばれた気がして、電車に乗って向かったのは、亡くなつた祖母の住んでいた町。遺産の後片づけのため、母親がしばらく家を空けて、そこにいるのだ。なりゆきで、母親がボランティアで関わる「森のようちえん」の子どもたちと一緒に過ごすことになる。大自然の中で力強く生きる子どもたちを目の当たりにして、野々歩も自然の美しさ、厳しさを知り、自分自身とも向き合っていく。

2月10日が配架の予定日です。もう少しお待ち下さいね。